

留学体験記

3年1組30番 田中大喜

Keyword: 「観光」「公共交通機関」「外国人観光客」「おもてなし」

1. はじめに

私は2024年1月29日から6月29日まで約5ヶ月間オーストラリアに留学していた。初めて1人で海外に行くことに不安があったが、異文化を理解をすることは、果たしてどういうことなのかについて学んできた。

私は留学する前に異文化理解というのを大雑把に捉えていた。SNSツールが拡大した今、国外へ留学について興味が湧き、自分で色々調べた結果、留学の決心がついた。今回は現地で学んだ経験をもとに自分が感じたことを書いた。

2. 序論

私がそもそも留学に興味を持った初めての出来事はこの高校で留学生の体験談を聞いた時だ。中学生の時は特に海外への気持ちがなくとても曖昧だった。この高校に来てから留学についての気持ちが日に日に強くなっていき、今思えば、学校の特徴でもある海外の人と交流するというのが大きいと思った。国際高校で個性豊かな友達や先生方、日本に来てくれた留学生の子たちと関わることによってもっといろいろな人と関わってみたい、いろいろな世界を知るきっかけにしたいといつしか思うようになっていった。また、自分の大きな挑戦を応援してくれるたくさんの方々の存在も自分の中でものすごく大きなチャレンジを決断できた理由でもある。自分がこれまで暮らしてきたものとは全く違う環境で過ごすことによって、異なる文化を体験してみたいと思った。しかし、コロナウイルスが流行っていたので、留学日がなかなか決定せず、その結果二年生の終わり頃から三年生の二学期約半年間留学に行った。短期間ではあったが、有意義な時間を過ごせたのでとても良かった。

3. 本論

<学校生活>

オーストラリアに行って私が驚いたことは、日本とオーストラリアの学校の違いだ。ほとんどが全く違っていたので、最初慣れるまでに時間がかかった。まずは学校の時間割だ。日本は7時間あるのに対して、オーストラリアは基本的に6時間授業だった。しかし、日本と比べて休憩時間がとても多いことに驚いた。2時限目が終了したら最初の休憩時間（20分間）が来て、その時間は何をしても自由な場合が多かった。お昼ご飯を食べてもよし、外でサッカーやバスケットボール、課題をしている人が多かったのも印象的だった。また、朝食の価格がとても高く驚いた。だいたい平均で600円から700円ぐらいで、感覚がわからないので、ジュースの価格で例えると300円から400円である。海外は物価が高いと再確認したと同時に驚きました。そして4限目終わり、今度は30分の休憩時間がやって来る。そこから6限目まで授業があり、学校が終了する。

日本では、学校が終わったらほとんどの人が部活をしてから、家に帰ることがよくあるルーティンだが、オーストラリアでは部活という概念がなく、みんな何かしらのクラブ（外部での活動）でスポーツをしていた。

授業での内容として、国際高校ではiPad、ノート、教科書などを使って授業を進めるが、現地ではノートパソコンを使って自主的に取り組む形で授業を受講した。いわば大学の授業に近いと感じた。ディスカッションやグループワークが中心の授業もあり、日本の講義形式とは異なり、学生が積極的に発言し、意見を述べるのが求められる場合が多かった。

また、留学生向けに英語のクラスが提供されており、基礎から上級までのレベルに応じた授業を受けることができた。課題の量や質も日本と異なる場合があり、特にエッセイやレポート、プレゼンテーションが重要な評価基準となることが多かった。

<授業以外の活動>

留学中に私が取り組んだ授業以外での活動は、現地の文化を深く理解し、充実した経験を得るために非常に重要であった。いくつかの活動を通して、学業だけでなく個人の成長にもつながる豊かな体験を得ることができた。私が行った主な活動を以下で紹介する。

・スポーツとアウトドア活動

学校のスポーツクラブに参加し、現地の学生と一緒にサッカーをプレーした。スポーツを通じて、言葉の壁を越えた友情が生まれ、現地の人々とのつながりが深まった。また、留学先が自然豊かな場所だったため、ハイキングやサイクリングなどのアウトドア活動も頻繁に行い、リフレッシュすることができた。そこでも語学の向上にも役立った。

・文化イベントへの参加

現地で開催される伝統的なフェスティバルやイベントに参加した。日本でいう文化祭だ。特に、地元の秋祭りでは、民族衣装を着て現地の伝統文化を鑑賞する機会があり、また、音楽フェスティバルやアート展示会にも参加し、現地のアーティストやパフォーマーと交流することができた。これにより、現地の文化や芸術への理解が深まった。オーストラリアの先住民（アボリジニー）が使う楽器の演奏会も聞けてすごく有意義な時間を過ごせた。

これらの活動を通じて、留学の経験は学業だけにとどまらず、異文化への理解と適応能力、そして新しい人々とのつながりを築くことができた。これらの体験は、私の視野を広げ、将来のキャリアや人生の選択に大きな影響を与える貴重なものとなった。

<アクティビティ>

オーストラリア留学中、現地の自然や文化を満喫しながら、さまざまなアクティビティを楽しんだ。特に自然豊かなオーストラリアでは、アウトドア活動や観光が豊富で、学業の間にリフレッシュできる貴重な時間となった。以下は、私が留学中に楽しんだ遊びやアクティビティのいくつかだ。

・ビーチでの活動

オーストラリアではビーチがとても有名で、よく聞く名前は、ボンダイビーチ、ゴールドコーストなどだが、残念ながらそこには行っていない。しかし、ホームステイ先の家の近くにビーチがあり、ホームファミリーと海に行った記憶がある。そこで私はバレーや水泳、クリケットなどをした。

・都市観光

シドニーやメルボルンといった都市を訪れ、カフェ巡りやショッピングを楽しんだ。特にメルボルンはアートや音楽の街として有名で、路上アートを見ながらの散策や、美術館の訪問はとても刺激的だった。また、音楽フェスティバルやフードマーケットなど、現地のイベントにも積極的に参加して、オーストラリアならではの文化を満喫した。

・野生動物とのふれあい

オーストラリアといえば、コアラやカンガルーといった野生動物も魅力の一つだ。動物園を訪れ、コアラを抱っこしたり、カンガルーにエサをあげたりする体験をした。これらの動物と直接ふれあえる機会は、日本ではなかなか得られないので、特に印象に残っている。

・スポーツ観戦

オーストラリアではスポーツが盛んで、特にクリケットやオージーフットボールがとても盛んである。私はオージーフットボールの試合観戦に行った。スタジアムでの熱気あふれる雰囲気や、地元の人々が試合を楽しんでいる様子は非常に魅力的で、異文化のスポーツを通して現地の文化に触れることができた。ホストファーザーがとても熱狂的なファンなので、毎週試合観戦をしたのはいい思い出となった。

<日本文化との違い>

オーストラリアでの留学中、自然やスポーツ、文化体験を通じてさまざまな形で遊びを楽しんだ。これらの活動は、現地の人々や他の留学生とつながるきっかけとなり、留学生生活をより豊かなものにしてくれた。オーストラリアに留学している間に、日本とオーストラリアの文化の違いにたくさん気がついた。これらの違いは、生活や人間関係、社会のあり方など多岐にわたり、異なる国の文化を理解する大きな学びとなった。以下は、いくつかの主な文化の違いだ。

・コミュニケーションスタイル

オーストラリアでは、意見や感情をはっきりと伝えることが一般的である。たとえば、授業や日常会話でも、自分の考えを率直に述べることが求められた。日本の文化では、相手に配慮しつつ控えめな表現を使うことが多いため、この違いを強く感じた。オーストラリアの人々はとてもフレンドリーで、初対面の人に対しても親しみを込めて話しかけてくれる。公共の場でも気軽に話しかけられることが多く、カジュアルでオープンなコミュニケーションに驚いた。

・時間感覚

特に私がすごく印象的だったのが、リラックスした時間の感覚だ。オーストラリアでは、日本に比べて時間に対する感覚が少しリラックスしている印象を受けた。たとえば、友人との待ち合わせやイベントの開始時間が多少遅れても、それほど厳しくは受け取られない。一方、日本では時間厳守が一般的で、予定通りに物事を進めることが重視される。

・仕事と生活のバランス

オーストラリアでは、仕事とプライベートのバランスが非常に重視されている。ホストファミリーは、仕事が終わった後は趣味や家族との時間を大切にしている、長時間残業することは一般的ではなかった。日本では仕事優先の文化が根強く、長時間労働が多いことと対照的である。

・個人主義と集団主義

オーストラリアでは、個人の自由や自己表現が強く尊重されており、他人と違う意見やライフスタイルを持つことが当たり前とされている。これに対して、やはり日本では集団の調和や他人との協調が重視され、個人よりも周りとのバランスを保つことが大切にされる場面が多い。

・食文化

オーストラリアは移民が多いため、さまざまな国の料理が日常的に楽しめる環境がある。インド料理、イタリア料理、アジア料理など、食の多様性が豊かで、特にシドニーやメルボルンなどの大都市では各国のレストランが身近にある。日本では和食が中心で、特定の文化の食事がメインになることが多いが、オーストラリアでは多様な食文化に触れることができた。

<現地で行った日本文化を伝える活動>

留学中、ホストファミリーと過ごす時間は、日本文化を伝える絶好の機会だ。オーストラリアのホストファミリーは日本に興味を持ってくれていたので、さまざまな形で日本の文化を紹介する活動を楽しむことができた。以下に、ホストファミリーに日本文化を伝えるために行った活動を紹介する。

・日本食を作って振る舞う

最も喜ばれたのは、日本の家庭料理を作って一緒に食べることだ。私は日本でなかなか料理を作ることがないので、何を作るか悩み、オーストラリアでも手に入りやすい卵を使っての料理、卵焼きをホストファミリーに作った。また、箸の使い方を教えたり、日本の食事マナーについて話したりすることで、食文化を通じて日本の生活様式を紹介することができた。

・日本語を教える

ホストファミリーは日本語に興味を持っていたので、簡単な日本語の挨拶や単語を教えた。「こんにちは」「ありがとう」「いただきます」など、日常的に使える日本語を少しずつ教えることで、コミュニケーションがより楽しくなった。また、名前の漢字やひらがなを書いてあげたり、日本の文字や書道の文化についても話したりした。

・日本の音楽や映画を一緒に楽しむ

ホストファミリーと一緒に、日本の映画やアニメを見たり、日本の音楽を聴いたりした。ジブリ映画や人気のアニメと一緒に鑑賞し、その内容や背景にある日本の文化について説明した。また、伝統的な日本の音楽や、ポップカルチャーに関連する音楽を紹介して、ホストファミリーに日本のエンターテインメントの多様性を伝えることができた。

・日常の生活習慣を共有する

日本の生活習慣やマナーについても日常の中で伝える機会があった。たとえば、食事の前に「いただきます」を言う理由や、靴を脱いで家に上がる文化について説明した。ホストファミリーはこうした日本独特の習慣に興味を持ち、家族の中で取り入れてくれることもあった。

4. 結論

オーストラリアへの留学を通じて、私の結論は、異文化に触れることで視野が広がり、自分自身を成長させる貴重な経験となるということだ。異文化理解の大切さ、自己成長と自立心の強化、英語力の向上とコミュニケーションの重要性、チャレンジ精神の大切さなどを学んだ。これからはこれらの経験をもとに未来に繋いでいきたい。

5. 参考文献・出典

オーストラリア政府観光, "オーストラリア流のライフスタイルについて",

Australia.com,

<https://www.australia.com/ja-jp/facts-and-planning/about-australia/the-aussie-way-of-life.html>

, (2024-9-13)